

市民のひろば

魅力あふれるいわきの創生
～いわきの芸術・文化・スポーツ～

今月号は、本市の無形民俗文化財であるじゃんがら念仏踊りの継承を通して、子どもたちの心を育む活動をしている「西郷子供じゃんがらの会」会長の伊東實さんにインタビューした内容をお伝えします。



伊東實さん(西郷子供じゃんがらの会会長)

レポート 239

Q 活動について教えてください。
じゃんがら念仏踊りを継承したい、そして、子どもたちの情操教育に役立てたいという思いから、平成十八年に団体を設立しました。西郷町区からの支援をいただくとともに、能満寺住職の厚意で境内を練習に使わせていただき、活動しています。福祉施設や、地域の祭り、市や企業のイベントなどで踊りを披露していますが、多くの方が、子どもたちの踊りを楽しみにしてくれているので、やりがいがあります。じゃんがら念仏踊りをPRするとともに、子どもたちにさまざまな経験を積んでもらうため、市外で披露することもあります。

また、活動を続けていくためには、指導者、子どもたち、保護者の連携

が大事なので、レクリエーションなども開催し、コミュニケーションを図るよう心掛けています。
Q 活動を通して子どもたちはどのように成長していますか。
最初はおとなしかった子どもたちが、活動を重ねることで、積極的になっていると感じます。自分の考えをきちんと伝えるようになってほしいという思いから、踊る前の代表あいさつは、子どもたちが行うようになっていますが、上手に話します。褒められると、子どもたちもやる気が湧き、どんどん上達していきま



指導を受けながら熱心に練習する子どもたち

すし、緊張しながらも大きな舞台上で立派に踊るので、感心しています。
また、卒業生が青年会のじゃんがら念仏踊りに参加し、伝統芸能を受
け継いで地域を担う存在になっていることも、とてもうれしいです。
Q 今後、どのような活動を展開していきたいですか。
市内はもちろん市外でも、積極的に活動していきたいです。交流のある団体がいる東京都中野区や、訪問時に大歓迎を受けた秋田県の由利本荘市など、多くの場所でも踊りを披露したいです。また、外国の方に披露して国際交流を図れたら、子どもたちの良い経験になると考えています。じゃんがら念仏踊りを通して、さまざまな経験を積むことが、子どもたちの成長の糧になっていると思います。興味があるお子さんがいましたら、随時会員を募集していますので、一緒に活動しましょう。



昨年訪問した高德院では特別に鎌倉大仏の足元で踊りを披露

地名の中の『いわき』

いわきの誕生④

時代が江戸から明治へ移行し、納税が物納から金納に変わっていく中で、徴収・配分する受け皿が検討されていきます。何度かの法改正を経て、県・郡・市町村という序列が成立し、その結果、江戸時代には特別の機能を持たなかった郡が、地方行政の要として位置付けられました。



石城郡町村議会議員大会(小川小学校講堂)(昭和30年代前半 国府田英二氏提供)

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

が存在しましたが、行政組織として一つにまとまるよう命を受けます。しかし、各郡は、一郡に集約すると業務量が多すぎるとして異を唱えます。折衷案として、明治十二(一八七九)年に郡庁を平町に置き、当面、三郡の連合郡役所として開庁します。明治十七(一八八四)年七月には平字田町(現在の株JTB東北いわき支店付近)に新たな郡役所が完成、最終的に明治二十九(一八九六)年四月に、三郡が統合し「石城郡」の名称になりました。

その後、石城郡は県・市町村の業務効率化によって実質的な役目を終え、大正十五(一九二六)年七月、内務省令改正により郡役所が廃止されます。郡の名称も徐々に取り払われ、いわき市誕生の時点で石城郡が付されていたのは、当時の四町五村のみでした。そのため町村から市名として提案された「石城市」は、大きな声とはなりませんでした。
(いわき地域学會 小宅幸一)
※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課(☎22・7503)までご連絡ください。

連載シリーズ

こんにちは市長室から 26



フィンランドの子育て支援制度「ネウボラ」

いわき市長 清水 敏 男

市制施行50周年を経て、本市の次なる50年に向けた最大の課題は、少子高齢化が進む中、人口減少をいかに抑え、持続可能なまちであり続けることができるかだと考えます。

市では、若い人たちの出会いの場を創出する結婚サポーター制度や交流イベントを実施し、結婚支援に取り組むほか、市役所内に子どもに関する施策を一元的に担当する「こどもみらい部」を、平成27年度に新設し、施策

展開を図ってまいりました。

具体的には、出産支援金の支給や赤ちゃん絵本プレゼント、保育料の引き下げなど、出産や子育てに係る経済的負担の軽減に力を入れるとともに、市内7カ所の地区保健福祉センターに子育てコンシェルジュを配置し、多様な相談に臨機応変に対応してまいりました。

そして、今月から子育て支援のさらなる充実を図るべく「いわきネウボラ」を実施し、各センター内で妊娠・出産・子育てに関するさまざまな問題や悩みに対して、ワンストップで相談、支援できる体制を整えました。

7月16日(日)13時から、総合保健福祉センターで、そのキックオフイベントを開催します。ぜひ参加いただき、本市の取り組みについて理解を深めていただければと思います。